

別表第1（第2条関係）

(1) 市民救命士講習（救命入門コース・90分コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸骨圧迫を救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。</li> <li>・ 自動体外式除細動器（AED）を使用できる。</li> </ul>
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技を主体とした講習とする。</li> <li>・ 訓練用資器材一式に対して受講者は5名以内とすることが望ましい。</li> <li>・ 指導者1名に対して受講者は10名以内とすることが望ましい。</li> </ul>

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			・ 応急手当の目的 ・ 必要性 (心停止の予防等を含む) 等	90分
応急手当の 実習（主に 成人に対す る方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生 法 (実技及び提 示)	・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領（展示又は体験） ・ 人工呼吸法（展示又は体験） ・ シナリオに対応した反応の確認から胸 骨圧迫まで	
		A E Dの使用方 法	・ A E Dの使用方 法 ・ A E Dの実技要領	
備 考	<p>・ 45分を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内） 特に45分で実施する場合は、訓練用資器材を充実させ、効果的な講習を実施する。</p> <p>・ 普通救命コースⅠの分割講習（1単位）として実施することを可能とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第3号で定める。（分割可能期間は概ね1年以内）</p> <p>・ 受講者が小学生の場合は、原則として分割講習としては取り扱わないが、当該受講者が概ね1年以内に中学生となる場合に限り、分割講習として取り扱うことを認める。</p> <p>・ 指導項目は、胸骨圧迫とA E Dの使用方を中心とし、原則として気道確保及び人工呼吸は展示のみに留め、異物除去及び止血法は指導しないものとする。</p> <p>・ 蘇生訓練用人形、A E Dトレーナーを使用し、これらを補完するため、簡易的な訓練用資器材などを活用することも可能とする。</p> <p>・ 受講対象者が小学生のみに限られ、且つ応急手当指導員が指導する場合において、応急手当指導員が講習の質を維持できると判断する場合は、前号の規定にかかわらず、簡易的な訓練用資器材を主として使用することを可能とする。</p> <p>・ 使用する教材は、市民救命士講習テキストを使用する。</p> <p>・ 体験のみの場合は、人工呼吸用マウスピースやフェイスシールドなどは使用しなくても良いものとする。</p>			

(2) 市民救命士講習（救命入門コース・45分コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸骨圧迫を救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。</li> <li>・ 自動体外式除細動器（A E D）を使用できる。</li> </ul>
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技を主体とした講習とする。</li> <li>・ 訓練用資器材一式に対して受講者は2名以内とすることが望ましい。</li> <li>・ 指導者1名に対して受講者は10名以内とすることが望ましい。</li> <li>・ 訓練用資器材を充実させ、効果的な講習を実施する。</li> <li>・ 指導時間を45分とする場合においては、指導者は応急手当指導員とし、救急インストラクター（応急手当普及員）による指導は認めない。</li> </ul>

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急手当の目的 ・ 必要性（心停止の予防等を含む）等</li> </ul>	45分
応急手当の実習（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技及び呈示）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 反応の確認・通報の手順</li> <li>・ 胸骨圧迫要領</li> </ul>	
		A E Dの使用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A E Dの使用方法</li> <li>・ A E Dの実技要領</li> </ul>	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普通救命コースⅠの分割講習（1単位）として実施することを可能とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第3号で定める。（分割可能期間は概ね1年以内）</li> </ul>
-----	---

(3) 市民救命士講習（救命入門コース・実技講習カリキュラム）

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			・ 市民救命士の趣旨 ・ 応急手当の目的・必要性（心停止の予防等を含む） ・ 感染防止の意義と方法	5分
応急手当の実習（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法	115分
		異物除去法	・ 背部叩打法 ・ 腹部突き上げ法	
		A E Dの使用方 法	・ A E Dを用いた心肺蘇生法(一人法)の効果確認	
合計時間				120分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命入門コース（90分コース及び45分コース）を受講後、概ね1年以内に実技講習を受講した場合は、普通救命Ⅰコースを受講したものとし、修了証を交付することができる。</li> <li>・訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大90分に短縮できるものとする。</li> </ul>
-----	--

(4) 市民救命士講習（普通救命コースⅠ・Ⅱ）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法（主に成人を対象）を、救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。</li> <li>・自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。</li> <li>・異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。</li> </ul>
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技を主体とした講習とする。</li> <li>・指導者1名に対して受講者は10名程度とすることが望ましい。ただし、受講者数及び受講者の応急手当に関する知識・技術の程度によって適宜増減することを妨げない。</li> </ul>

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市民救命士の趣旨</li><li>・ 応急手当の目的</li><li>・ 応急手当の必要性（心停止の予防等を含む）</li><li>・ 感染防止の意義と方法</li></ul>	15分
応急手当の実習（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 反応の確認・通報の手順</li><li>・ 胸骨圧迫要領</li><li>・ 気道確保要領</li><li>・ 人工呼吸法</li><li>・ シナリオに対応した心肺蘇生法</li></ul>	165分
		A E Dの使用法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ A E Dの使用法</li><li>・ 指導者による使用法の呈示</li><li>・ A E Dの実技要領</li></ul>	
		異物除去法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 背部叩打法、腹部突き上げ法</li></ul>	
		効果確認（※）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ A E Dを用いた心肺蘇生法（一人法）の効果確認</li></ul>	60分
合計時間				180分
				240分（※）

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される者を対象とする講習会（普通救命コースⅡ）については上記カリキュラムに加え60分の試験（実技・筆記）を実施し、客観的評価で80%以上を理解できたことを合格の目安とする。</li> <li>・60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）</li> <li>・救命入門コースと併せた分割講習も可能とする。（分割可能期間は概ね1年以内）</li> <li>・web講習又はオンライン講習を利用した分割講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第5号で定める）</li> <li>・訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大120分に短縮できるものとする。</li> </ul> <p>（※）普通救命コースⅡの場合</p>
-----	--

(5) 市民救命士講習（普通救命コースⅠ・Ⅱ）実技講習（web講習又はオンライン講習利用時）

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			・ 応急手当の目的・必要性 ・ web講習に関する質疑応答	5 分
応急手当の 実習（主に 成人に対する 方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生 法（実技）	・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法	115分
		A E Dの使用方 法	・ 指導者による使用法の呈示 ・ A E Dの実技要領	
		異物除去法	・ 背部叩打法、腹部突き上げ法	
		効果確認（※）	・ A E Dを用いた心肺蘇生法（一人法） の効果確認	60分
合 計 時 間				120分
				180分（※）

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される者を対象とする講習会（普通救命コースⅡ）については上記カリキュラムに加え60分の試験（実技・筆記）を実施し、客観的評価で80%以上を理解できたことを合格の目安とする。</li> <li>・ 60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）</li> <li>・ 訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は応急手当指導員の判断により、講習時間を最大90分に短縮できるものとする。</li> <li>（※）普通救命コースⅡの場合</li> </ul>
-----	---

(6) 市民救命士講習（小児コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法（主に小児、乳児、新生児を対象）を、救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。</li> <li>・自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。</li> <li>・異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。</li> </ul>
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技を主体とした講習とする。</li> <li>・指導者1名に対して受講者は10名程度とすることが望ましい。ただし、受講者数及び受講者の応急手当に関する知識・技術の程度によって適宜増減することを妨げない。</li> </ul>

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市民救命士の趣旨</li><li>・ 応急手当の目的</li><li>・ 応急手当の必要性</li><li>・ 小児・乳児の事故防止の必要性</li><li>・ 感染防止の意義と方法</li></ul>	15分
応急手当の実習（主に小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 反応の確認・通報の手順</li><li>・ 胸骨圧迫要領</li><li>・ 気道確保要領</li><li>・ 人工呼吸法</li><li>・ シナリオに対応した心肺蘇生法</li></ul>	165分
		A E Dの使用法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ A E Dの使用法</li><li>・ 指導者による使用法の呈示</li><li>・ A E Dの実技要領</li></ul>	
		異物除去法	小児、乳児の区分に応じた異物除去法（背部叩打法、腹部突き上げ法、胸部突き上げ法）	
合計時間				180分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）</li> <li>・web講習又はオンライン講習を利用した分割講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第7号で定める）</li> <li>・訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大120分に短縮できるものとする。</li> </ul>
-----	--

(7) 市民救命士講習（小児コース） 実技講習（web講習又はオンライン講習利用時）

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			・ 応急手当の目的・必要性 ・ web講習に関する質疑応答	5 分
応急手当の実習（主に小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法	115分
		A E Dの使用方 法	・ 指導者による使用法の呈示 ・ A E Dの実技要領	
		異物除去法	小児、乳児の区分に応じた異物除去法 （背部叩打法、腹部突き上げ法、胸部突き上げ法）	
合計時間				120分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 60分間を1単位として分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）</li> <li>・ 訓練用資器材一式に対して受講者2名以内で講習を実施でき、質を担保できる場合は、応急手当指導員の判断により、講習時間を最大90分に短縮できるものとする。</li> </ul>
-----	---

(8) 市民救命士講習 (ケガの手当コース)

項 目		細 則	時 間
応急手当の重要性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民救命士の趣旨</li> <li>・ 応急手当の目的</li> <li>・ 応急手当の必要性</li> <li>・ 感染防止の意義と方法</li> </ul>	15分
応急手当の実習	止血法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接圧迫法</li> <li>・ 止血帯法</li> </ul>	105分
	包帯法 (三角巾法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たたみ三角巾の作り方</li> <li>・ 本結びの要領</li> <li>・ 三角巾を使った固定、被覆要領</li> </ul>	
	副子固定法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副木を使った固定要領</li> </ul>	
合計時間			120分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技講習は受講者 2 名一組になって相互実習を指導する。</li> <li>・ 60分間を 1 単位として分割した講習を可能とする。(分割可能期間は概ね 1 か月以内)</li> </ul>
-----	--



## (9) 市民救命士講習（上級コース）

1 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心肺蘇生法を、救急車が現場に到着するのに要する時間程度できる。</li> <li>自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。</li> <li>異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。</li> <li>傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法等を習得する。</li> </ul>
2 基本的な実施要領	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技を主体とした講習とする。</li> <li>指導者1名に対して受講者は10名程度とすることが望ましい。ただし、受講者数及び受講者の応急手当に関する知識・技術の程度によって適宜増減することを妨げない。</li> </ul>

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市民救命士の趣旨</li><li>・ 応急手当の目的</li><li>・ 応急手当の必要性</li><li>・ 感染防止の意義と方法</li></ul>	15分
応急手当 の実習	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 反応の確認・通報の手順</li><li>・ 胸骨圧迫要領</li><li>・ 気道確保要領</li><li>・ 人工呼吸法</li><li>・ シナリオに対応した心肺蘇生法</li></ul>	285分
		A E Dの使用方 法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ A E Dの使用方 法</li><li>・ 指導者による使用法の呈示</li><li>・ A E Dの実技要領</li></ul>	
		異物除去法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 成人及び小児・乳児の区分に応じた異物除去法</li></ul>	
		効果確認	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 効果測定</li></ul>	
	止血法		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 直接圧迫法、止血帯法</li></ul>	60分
	心肺蘇生法に関する知識の確 認		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 筆記試験及びシナリオを使用した実技試験</li></ul>	
その他の 応急手当	傷病者管理法		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 衣類の緊急解除、保温法、体位管理</li></ul>	120分
	応急手当の要領		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 包帯法、三角巾法、副子固定法、熱傷の手当法</li><li>・ 熱中症への対応（予防も含む）</li><li>・ その他の手当（溺水、頸椎保護、すり傷、切り傷、気管支喘息、痙攣、低血糖、失神、アナフラキシー、歯の損傷、毒物等）</li></ul>	
	搬送法		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 搬送の基本、担架搬送法、応急担架作成法</li></ul>	
合計時間				480分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>外傷手当の実技講習は、受講者2名一組になって、相互実習を指導する。</li> <li>60分間を1単位として、4単位を基準に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）</li> <li>web講習又はオンライン講習を利用した分割講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内とし、分割時の実技講習カリキュラムは別表第1第10号で定める）</li> </ul>
-----	---

(10) 市民救命士講習（上級コース） 実技講習（web講習又はオンライン講習利用時）

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			・ 応急手当の目的・必要性 ・ web講習に関する質疑応答	5 分
応急手当 の実習	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法	235分
		A E Dの使用方 法	・ 指導者による使用法の呈示 ・ A E Dの実技要領	
		異物除去法	・ 成人及び小児・乳児の区分に応じた異 物除去法	
		効果確認	・ 効果測定	
	止血法		・ 直接圧迫法、止血帯法	
	心肺蘇生法に関する知識の確 認		・ 筆記試験及びシナリオを使用した実 技試験	60分
その他の 応急手当	傷病者管理法		・ 衣類の緊急解除、保温法、体位管理	120分
	応急手当の要領		・ 包帯法、三角巾法、副子固定法、熱傷 の手当法  ・ 熱中症への対応（予防も含む）  ・ その他の手当（溺水、頸椎保護、すり 傷、切り傷、気管支喘息、痙攣、低血 糖、失神、アナフラキシー、歯の損傷、 毒物等）	
	搬送法		・ 搬送の基本、担架搬送法、応急担架作 成法	
合計時間				420分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外傷手当の実技講習は、受講者2名一組になって、相互実習を指導する。</li> <li>・ 60分間を1単位として、4単位と3単位に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）</li> </ul>
-----	--

(10-2) 市民救命士講習 (上級コース) 実技講習 (web講習又はオンライン講習利用時)

項 目			細 則	時 間
応急手当の重要性			・ 応急手当の目的・必要性 ・ web講習に関する質疑応答	5 分
応急手当 の実習	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	・ 反応の確認・通報の手順 ・ 胸骨圧迫要領 ・ 気道確保要領 ・ 人工呼吸法 ・ シナリオに対応した心肺蘇生法	235分
		A E D の使用方法	・ 指導者による使用法の呈示 ・ A E D の実技要領	
		異物除去法	・ 成人及び小児・乳児の区分に応じた異物除去法	
		効果確認	・ 効果測定	
	止血法		・ 直接圧迫法、止血帯法	60分
	心肺蘇生法に関する知識の確認		・ 筆記試験及びシナリオを使用した実技試験	
	その他の 応急手当	傷病者管理法		・ 衣類の緊急解除、保温法、体位管理
応急手当の要領		・ 包帯法、三角巾法、副子固定法、熱傷の手当法  ・ 熱中症への対応（予防も含む）		
搬送法		・ 搬送の基本、担架搬送法、応急担架作成法		
合計時間				360分

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外傷手当の実技講習は、受講者2名一組になって、相互実習を指導する。</li> <li>・ 60分間を1単位として、3単位と3単位に分割した講習を可能とする。(分割可能期間は概ね1か月以内)</li> </ul>
-----	--

(11) 救急インストラクター（応急手当普及員）講習（一般受講者対象）

項 目		細 則	時 間	
基礎的な知識	基礎知識	・救急インストラクター制度の趣旨と心構え ・救急隊の使命と市民の役割（救命の連鎖）の理解 ・市民と救急隊との連携 ・応急手当の目的及び必要性	120分	540分
	救命に必要な応急手当の基礎実技	・観察要領、A E Dを用いた心肺蘇生法、止血法、感染防止の意義と方法	240分	
	その他の応急手当の基礎知識	傷病者管理法、搬送法、外傷の手当法	180分	
指導要領	基礎医学	・呼吸・循環器系等の解剖・生理学 感染防止の意義と方法	120分	780分
	資器材の取扱い	・保守管理（分解・消毒）	60分	
	指導技法	・レスンプランの作成要領 ・展示要領 ・指導要領	120分	
	救命に必要な応急手当の指導要領	・観察・通報の指導要領 ・胸骨圧迫の指導要領 ・気道確保の指導要領 ・人工呼吸法の指導要領 ・心肺蘇生法の指導要領 （成人・小児・乳児に対する一人法及び二人法） ・A E Dを用いた心肺蘇生法の指導要領 ・異物除去の指導要領	240分	
		・止血法の指導要領（直接圧迫止血法・止血帯法）	60分	
		・搬送法，応急担架作成要領	60分	
	各種応急手当の組み合わせ・応用の指導要領	・想定課題に基づく応用実習 ・体位管理要領	120分	
	効果測定・指導内容に関する質疑への対応			120分
合計時間			1440分	

備 考	・60分間を1単位として、8単位を基準に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）
-----	---

(12) 救急インストラクター（応急手当普及員）講習（養護教諭等対象）

項 目		細 則	時 間	
基礎的な知識	基礎知識	・救急インストラクター制度の趣旨と心構え ・救急隊の使命と市民の役割（救命の連鎖）の理解 ・市民と救急隊との連携 ・応急手当の目的及び必要性	120分	540分
	救命に必要な応急手当の基礎実技	・観察要領、A E Dを用いた心肺蘇生法、止血法、感染防止の意義と方法	240分	
	その他の応急手当の基礎知識	・傷病者管理法、搬送法、外傷の手当法	180分	
指導要領	基礎医学	・呼吸・循環器系等の解剖・生理学 感染防止の意義と方法	60分	780分
	資器材の取扱い	・保守管理（分解・消毒）	30分	
	指導技法	・レスンプランの作成要領 ・展示要領 ・指導要領	90分	
	救命に必要な応急手当の指導要領	・観察・通報の指導要領 ・胸骨圧迫の指導要領 ・気道確保の指導要領 ・人工呼吸法の指導要領 ・心肺蘇生法の指導要領 （成人・小児・乳児に対する一人法及び二人法） ・A E Dを用いた心肺蘇生法の指導要領 ・異物除去の指導要領	120分	
		・止血法の指導要領（直接圧迫止血法・止血帯法）	30分	
		・搬送法、応急担架作成要領	30分	
	各種応急手当の組み合わせ・応用の指導要領	・想定課題に基づく応用実習 ・体位管理要領	120分	
	効果測定 ・ 指導内容に関する質疑への対応			120分
合計時間			960分	

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現に養護教諭の職にある者を対象とする。</li> <li>・60分間を1単位として、8単位を基準に分割した講習を可能とする。（分割可能期間は概ね1か月以内）</li> </ul>
-----	---

(13) 応急手当指導員講習 I

項 目		細 則	時 間	
指導要領	指導技術	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市民救命士制度の趣旨</li><li>・ 救命の連鎖の理解</li><li>・ 感染防止の意義と方法</li><li>・ 講習指導員の役割・心構え</li><li>・ 展示要領</li><li>・ 指導要領</li></ul>	60分	435分
	救命に必要な応急手当の指導要領	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 観察・通報の指導要領</li><li>・ 胸骨圧迫の指導要領</li><li>・ 気道確保の指導要領</li><li>・ 人工呼吸法の指導要領</li><li>・ 心肺蘇生法の指導要領 (成人・小児・乳児に対する一人法及び二人法)</li><li>・ A E Dを用いた心肺蘇生法の指導要領</li><li>・ 異物除去要領</li></ul>	180分	
		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 止血法の指導要領（直接圧迫止血法・止血帯法）</li></ul>	60分	
	その他の応急手当の指導要領	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 傷病者管理法・搬送法の指導要領</li><li>・ 外傷の手当の指導要領</li></ul>	90分	
	各種手当の組み合わせ・応用の指導要領	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 想定課題に基づく応用実習</li><li>・ 体位管理の指導法</li></ul>	45分	
効果測定 ・ 指導内容に関する質疑への対応			45分	
合計時間			480分	

## (14) 応急手当指導員講習Ⅱ

項 目		細 則	時 間	
基礎的な知識技能	基礎知識	・ 応急手当指導員制度の趣旨と心構え ・ 救急隊の使命と市民の役割（救命の連鎖）の理解 ・ 市民と救急隊との連携 ・ 応急手当の目的及び必要性	60分	480分
	救命に必要な応急手当の基礎実技	・ 観察要領、A E Dを用いた心肺蘇生法、止血法、感染防止の意義と方法	240分	
	その他の応急手当の基礎知識	・ 傷病者管理法、搬送法、外傷の手当法	180分	
指導要領	基礎医学	・ 呼吸・循環器系等の解剖・生理学 ・ 感染防止の意義と方法	240分	840分
	資器材の取扱い	・ 保守管理（分解・消毒）		
	指導技法	・ レッスンプランの作成要領 ・ 展示要領 ・ 指導要領		
	救命に必要な応急手当の指導要領	・ 観察・通報の指導要領 ・ 胸骨圧迫の指導要領 ・ 気道確保の指導要領 ・ 人工呼吸法の指導要領 ・ 心肺蘇生法の指導要領（成人・小児・乳児に対する一人法及び二人法） ・ A E Dを用いた心肺蘇生法の指導要領 ・ 異物除去の指導要領	300分	
		・ 止血法の指導要領（直接圧迫止血法・止血帯法）  ・ 搬送法、応急担架作成要領	180分	
	各種応急手当の組み合わせ・応用の指導要領	・ 想定課題に基づく応用実習 ・ 体位管理要領	120分	
効果測定 ・ 指導内容に関する質疑への対応			120分	
合計時間			1440分	

別表第2 (第4条関係)

(1) 市民救命士再講習 (普通救命コースⅠ・Ⅱ)

項 目		細 則	時 間
情報提供		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急手当等に関する最近の情報</li> <li>・ 感染防止の意義と方法</li> </ul>	60分
応急手当の実習	観察要領	・ 救命観察の手順	
	成人の心肺蘇生法 (AEDを含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸骨圧迫要領</li> <li>・ 気道確保要領</li> <li>・ 人工呼吸法</li> <li>・ AEDの使用方法</li> </ul>	
	異物除去	・ 背部叩打法、腹部突き上げ法	

※ 従前の心肺蘇生法コースについても適用する。

(2) 市民救命士再講習 (小児コース)

項 目		細 則	時 間
情報提供		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急手当等に関する最近の情報</li> <li>・ 感染防止の意義と方法</li> </ul>	60分
応急手当の実習	観察要領	・ 救命観察の手順	
	小児 ・ 乳児の心肺蘇生法 (AEDを含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸骨圧迫要領</li> <li>・ 気道確保要領</li> <li>・ 人工呼吸法</li> <li>・ AEDの使用方法</li> </ul>	
	異物除去	・ 背部叩打法、腹部突き上げ法、胸部突き上げ法	

(3) 市民救命士再講習 (ケガの手当コース)

項 目		細 則	時 間
情報提供		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急手当等に関する最近の情報</li> <li>・ 感染防止の意義と方法</li> </ul>	60分
応急手当の実習	止血法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接圧迫止血法</li> <li>・ 止血帯法</li> </ul>	
	三角巾法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たたみ三角巾の作り方</li> <li>・ 本結びの要領</li> <li>・ 三角巾を使った固定、被覆要領</li> </ul>	
	副子固定法	・ 副木を使った固定要領	



(4) 市民救命士再講習 (上級コース)

項 目		細 則	時 間
情報提供		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急手当等に関する最近の情報</li> <li>・ 感染防止の意義と方法</li> </ul>	90分
応急手当の実習	観察要領	・ 救命観察の手順	
	成人の心肺蘇生法 (A E Dを含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸骨圧迫要領</li> <li>・ 気道確保要領</li> <li>・ 人工呼吸法</li> <li>・ A E Dの使用方法</li> </ul>	
	異物除去	・ 成人及び小児 ・ 乳児の区分に応じた異物除去法	
	止血法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接圧迫止血法</li> <li>・ 止血帯法</li> </ul>	30分
	外傷の手当法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三角巾法</li> <li>・ 副木を使った固定法</li> </ul>	
合計時間			120分

(5) 救急インストラクター再講習

項 目		細 則	時 間
情報提供		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 応急手当等に関する最近の情報</li><li>・ 感染防止の意義と方法</li></ul>	60分
指導要領	救命に必要な応急手当の指導要領	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 観察の指導要領</li><li>・ 気道確保の指導要領</li><li>・ 異物除去の指導要領</li></ul>	
		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 止血法の指導要領 (直接圧迫止血法、止血帯法)</li><li>・ A E Dを用いた心肺蘇生法の指導要領</li><li>・ 心肺蘇生法の実施要領 (成人・小児・乳児に対する一人法及び二人法)</li></ul>	120分
合計時間			180分

(6) 応急手当指導員再講習  
救急インストラクター再講習に準じる。